

## 【CHANGE（総合的な学習の時間）】領域提案

自己の生き方を更新していく子ども  
～多様な視点での学び合いを通して～

### 1. 研究テーマ設定の理由

#### （１）学校提案とかかわって

総合的な学習の時間（以下文中では、総合とする）における「問い続け、学び続ける子どもたち」とは、仲間と共に課題に向かって追究していく活動を通して、自己の生き方を更新していく子どもたちのことである。子どもは、一生懸命になって問い続ける活動をすることで、自ら学ぼうとする意識が高まり、多様な視点で追究するようになる。総合は、子どもたちがそれぞれに自分の好きなところに土俵を設けて、そこで自分の持ち味や良さを十分に発揮できる学習活動である。総合は、事象を単に知識として獲得するだけではなく、「ひと・もの・こと」という具体的な対象とかかわらせる中で認識され、追究していく過程を通して深化していくものであると考える。それぞれの子どもが課題に向かって多様な視点で考えて話し合うことを大切にしていく。そのような話し合いの中で、子どもは対象・他者・自己と対話をする経験を積み重ね、自己の生き方を更新していく。

#### （２）子どもの言葉でつくる総合の授業

総合における子どもの言葉とは、子どもの内面から発せられる問いや考えとする。子どもの問いや考えがつながり、学びが深化していくことが、子どもの言葉でつくる授業と考える。このような言葉が子どもの内面から表出されるために、教師は、「ひと・もの・こと」との出会いを大切にして探求のプロセスを考えていく。

#### （３）総合でめざす子ども像

総合は、価値ある課題を解決しようとすることによってやり遂げるという学習活動の経験を得られる。その中で、総合部では下記のような子どもの姿をめざし、研究を進めていきたい。

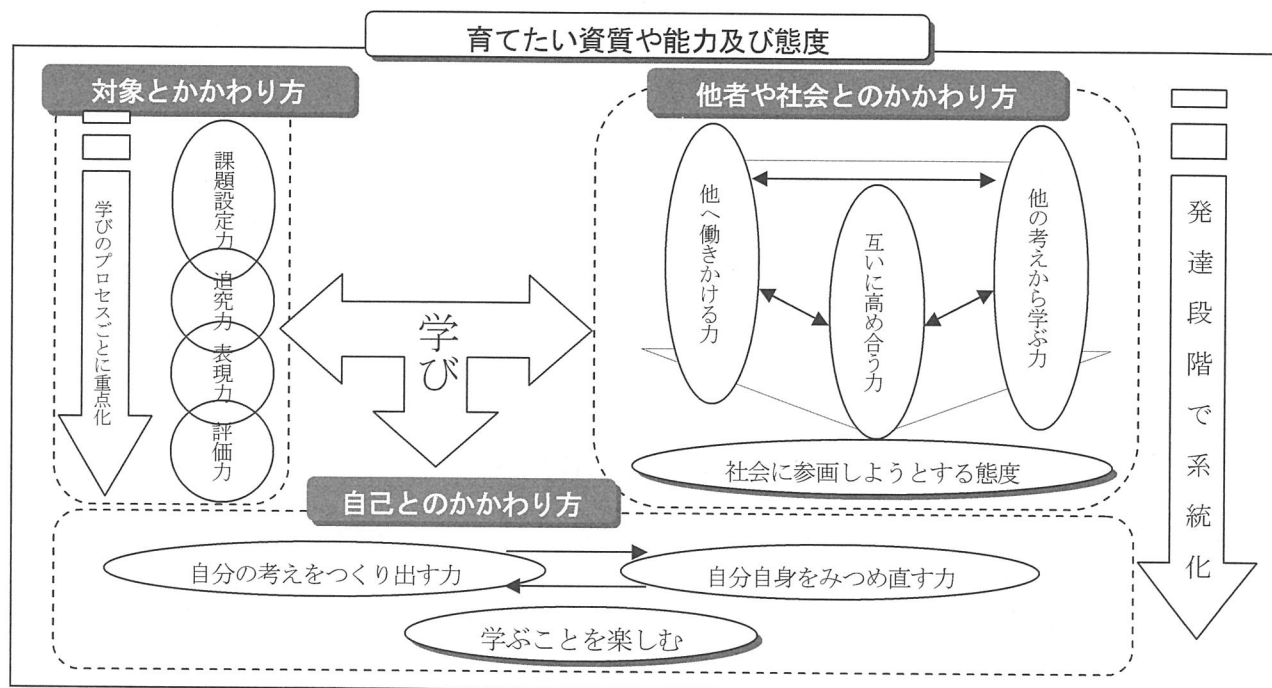
- ① 感覚的な情報をとらえ、こだわりをもちながら学習をすすめていける子
- ② 仲間と対話し学びを深め、未来の生き方につなげられる子

### 2. 総合における「問い続け、学び続ける子どもたち」

子どもはひとり学習、グループ学習で調べてきたことを全体学習で他者と対話する中で、自分の考えが揺さぶられ、自己の思いを更新していく。

また、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を発展的につないでいく探求のプロセスを大切にしていく。この探求のプロセスは必ずしも、このような順番になるとは限らない。整理・分析をしてから再び情報の収集をする場合もある。また、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった探求のプロセスを繰り返し行うこともある。

教師は、子どもをしっかりみとり、「ひと・もの・こと」とのかかわりを中心にした学びの中で、意欲が高まっていくプロセスを考えていく必要がある。そのため、一度計画していても、子どもの様子をもとに計画を変更することもある。



問い続け、学び続ける子どものために、CHANGEで育てたい資質や能力及び態度

### (1) 本年度の実践から「問い続け学び続ける子どもたち」

課題：どうしたら紀州材の良さを伝えることができるのだろうか。

そう：紀州材の良さなどまとめたチラシを作ったり、イベントをしたりしたらいいんじゃないかな。

はる：いいと思うけど、もっと私たちにしかできないことないかな。

けんじ：なんか自分たちが紀州材のことを勉強して知ったことを映像にまとめてインターネットとかでできるだけたくさんの人に見てもらえないかな。

そう：それはいいかも。

けんじ：それなら、いろんなことを知ったけど、どれが一番言いたいかをみんなで決めないといけないんじゃないかな。

はる：自分たちが言うだけじゃなくて、設計士のTさんたちにもインタビューできたら説得力あるかも。

#### 振り返り

これまでの学習経験もあり、子どもたちは最後に発信をすることを意識していた。今回紀州材に関わる魅力ある大人にたくさん出会った。また、※1ほんまもん体験を多くしてきた。そのような経験を通して、今まで何気なく見ていた紀州材の背景を知ることができた。紀州材には、多くの人たちの思いが込められていることを知った。そして、自分の周りで使われている木がどこから来たのかを知らなさすぎることや、和歌山にはたくさんの木があるにも関わらず外国の木を使っていることは良くないと思うようになった。「ひと・もの・こと」との出会いを通して、本気で紀州材を元気にしたいと思うようになった子どもたちは、自分たちにも何かできないかと考えるようになり、自分たちの

学んだことを映像作品にすることになった。その映像作品を作るというまとめ・表現を通して、再び情報収集や整理・分析を行った。この探究のプロセスとすることで学びが深まり、よりよい映像作品を作ることができた。子どもたちは、出来上がった映像作品を見ることで再び自分たちの学びを想起すると同時に、学んできて良かったと感じる成功体験もすることができた。このような経験をした子どもたちは、これからも今まで何気なく見ていたものの背景に疑問を感じ、追究をしていこうと考えていくであろう。これが、総合的な学習の時間における問い続け、学び続ける子どもの姿だといえる。

※1 ほんまもん体験・・・実際に肌で感じ、味わい、そして人との関わりのある体験

## (2) CHANGE における問い続け学び続ける子どもたち姿

	3 年	4 年	5 年	6 年
課題解決	教師と共に単元全体の見通しをもって学ぶ	対象から課題を見いだして追究する	対象について広い視野から課題を見いだして追究する	対象について広い視野から課題を見いだして追究し、自分の生き方を考える
対話	友だちの考えにかかわり、違いや同じところがわかり、新たな考えをうみだす	多様な考えに進んでかかわり、他者とともに新たな考えをうみだす	多様な考えに進んでかかわり、三位一体の対話で自己の変容に気付く	多様な考えに進んでかかわり、三位一体の対話で自己の変容に気付く
学び方	学び方を学び、対象について必要なことを集め、表現する	対象を的確に観察、調査し、目的に応じて、読み取ったり、まとめたりする	具体的な観察ばかりでなく間接的な資料をもとに、対象を的確に観察、調査し、目的に応じて活用する	間接的な資料を理解し、対象を的確に観察、調査し目的に応じて活用する

### (問い続け学び続ける子どもの姿)

## 3. 研究の展望

自己の生き方を更新する子どもを育てるため研究として以下の3点を意識していきたい。

### ① 子どもが夢中になる教材開発と学習課題の設定

子どもが自分たちの力で課題を乗り越えて、社会的に価値のある目標を実現するという学習活動を体験する。そのためには、ほんまもん体験や身体を使い知恵を働かせて努力・工夫したくなる活動を設定していく。また、他の友だちと協同して活動できる学習課題を設定していく。その中で、子どもたちが、探究のプロセス（図1）を大切にできるようにする。

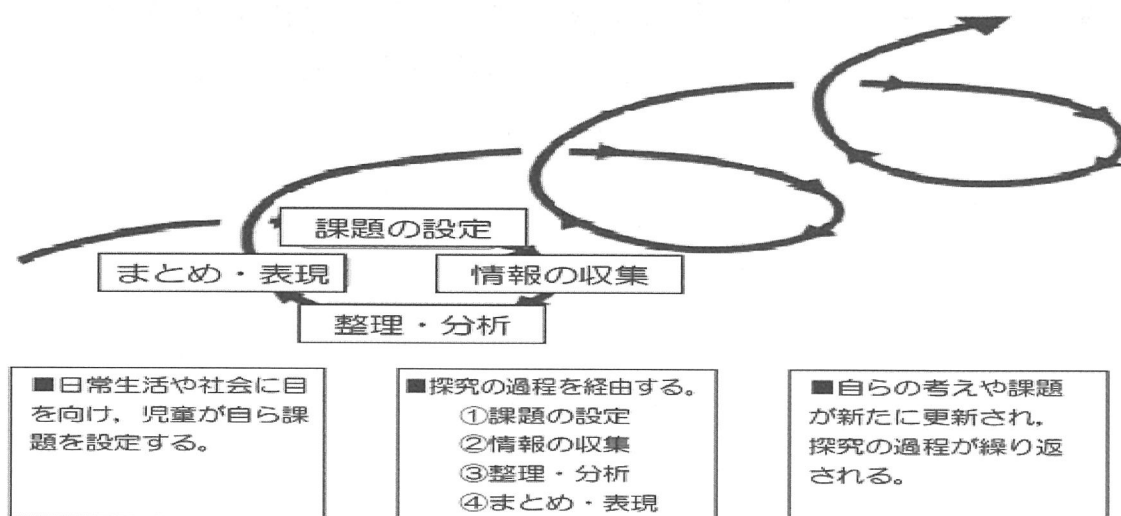


図1 探究のプロセス

## ② ひitori学習を全体学習につないでいく

魅力的な学習教材と出会い、一つの事象について真剣に向かうことで個々の課題が生まれ、ひとり学習の質が高まっていく。学びの質を高めていくためには、子どもがどのようなひとり学習をしているのかを教師がしっかりみとり、必要な支援をすることが大切である。

子どもが学びを進めているノートや作文、発言から個々の学びをみとり、子どもたちの変容を把握していく。個々で調べていることにコメントをし、個に応じた支援をすることで、子どもの学びを深め、全体学習へとつないでいく。

## ③ 思考ツールを活用した対話の充実

対話において、他者の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせることを大切にしていく。自分の考えを視覚的に整理分析するために様々な思考ツールを活用していく。

子どもたちが様々な「問い」を自分自身や仲間投げかけ、課題について真剣に向き合い、より豊かな学びを創っていける学習をめざしたい。

## 4. 研究の評価

総合においては、自己の変容を可視化するために、単元の導入・活動の節目・終末に作文を書いて、自らの変容を確かめるようにした。一人ひとりが個人ファイルに調べてきたことや考えを蓄積していくことで、新たな課題を見つけ、学びを深めるようにした。そして、教師は、子どものひとり学習を個人ファイルや発言などでみとるとともに、その変容を把握し、個々の学びを評価した。全体学習では、互いの考えを伝え合う活動を通して、話し合いによる学びの質の深まりをみとり、評価する。また、学習の流れ、個人の思いが可視化できるように、板書の工夫や振り返りの作文を書かせることで、自己への認識を更新し、新たな視点で思考することができる子どもが育った。

何よりも自己の生き方を更新していくために、ほんまもん体験を取り入れた探究のプロセスを大切に学んだ。それにより、学ぶことに楽しみを感じ、問い続け学び続ける子どもが育った。